

歴史を想い、  
今日を祝い、  
未来へ遺す。  
今年の市政は  
いかに。



新春ほっとコラム

# さあ、建都400年 そして 市民協働・地域分権元年

秋田市長 佐竹 敬久

皆さま、新年おめでとうござ  
います。

一六〇四年、佐竹義宣公が久  
保田城入城を果たし、ここ秋田  
の地で新たな気概のもと、まち  
割り、現代風にいえば都市計画  
を手がけてからちよūd四〇〇  
年。この記念すべき年がいよいよ  
よ始まりです。そして、私は新  
たな時代を告げるこの年を、同  
時に「市民協働」「都市内地域分  
権」の幕開けの年にしたいと考  
えています。

さあ、建都四〇〇年  
歴史の証人であ  
り原動力に

「歴史を想い、今日を祝い、  
未来へ遺す」を基本理念に進め  
てきた建都四〇〇年。いよいよ  
今年が本番です。私は今一度こ  
の意味を深くかみしめたいと思  
います。

私たち秋田市民は、建都四〇

2004年版  
イベント  
カレンダー

## 佐竹三十六歌仙とめぐる 「あきた歳時記」

小野小町、紀貫之、大伴家持ら36人  
の歌仙たちが、県内のお祭りやイベン  
トを優雅な表現で紹介します。

1部500円。県内書店・スーパーマ  
ケットで販売中！

問い合わせ 企画調整課tel(866)2032



〇年という歴史的エポックに居  
合わせた歴史の証人であると同  
時に、かけがえのないふるさと  
秋田の自然や文化、そして発展  
への可能性を、次代さらには未  
来に引き継ぐ原動力としての役  
割を担う責務があります。  
記念すべき歴史の一步をとも  
に高々と歌い上げ、今こそ秋田  
の再発見と明日を見つめる旅に  
出ようではありませんか。



昨年秋にオープンしたサンバル秋田で、中央公民館の陶芸サークル・陶友会のみなさんと



# 他人任せにしては、何も始まらない。

市民協働元年へ  
地方分権の中で

戦後五十年を迎えたあたりから日本の社会システムのほころびが顕著になり、さまざまな面で機能不全に陥っています。

この要因のひとつに、全国一律のルールや考え方、そしてそれに基づく画一的な方策、いわば中央集権の形態が、多様化する時代にそぐわなくなったという側面があります。

また、国・地方自治体とも、長年にわたる社会基盤整備や長引く景気低迷に対する経済対策のため、いわば借金である多額の公債を発行した結果、財政状況が極度に厳しくなりました。このままでは数年のうちに正常な行政運営ができなくなるおそれがあるものとなってきています。

このような中で、そこに暮らす住民が地域に合ったルールのもと、地域の特色を活かした地域づくりを行うという、いわゆる地方分権の流れが大きくなってきました。